

燒岳(硫黃岳)ノ噴火ニ就キテ(小引)

理學博士 大森房吉

燒岳(硫黃岳)ハ信濃國南安曇郡ト飛驒國吉城郡トノ境ニアル一火山ニシテ明治四十年十二月ヨリ噴烟爆發ヲナシ今ニ及ビテ活動ヲ繼續セリ、理學士加藤鐵之助氏ノ硫黃岳火山地質調査概報(震災豫防調査會報告第六十六號)ニ依ルニ硫黃岳ハ天正十三年ニ噴火セルコトアリ、爾後ハ靜止シテ山頂ノ噴火口ニモ樹木ノ繁茂スルニ至リシガ二十年程前ヨリ硫氣孔ヲ生ジ次第ニ其ノ勢力ヲ増シテ遂ニ今回舊噴火孔底ノ一部ヲ爆破スルニ至レルナリト云フ。

長野、松本、高山ノ各測候所ニ依頼シテ燒岳近時ノ噴火ニ關スル報告ヲ蒐集シタルニ、明治四十年十二月ヨリ同四十三年末ニ至ル迄ノ三年間ニ約十七回ノ破裂、即チ爆發、噴烟ヲナセリ、次ニ列記スルガ如シ

(1) 明治四十年十二月八日

午後三時 降灰凡ソ一分積ル (吉城郡船津)

午後二時ヨリ降雪ト共ニ降灰三分ニ達セリ (高山測候所)

(2) 明治四十年十二月十一日

降灰區域ハ郡下、波多村、山形、和田、新神、島立ノ六ヶ村

ニ及ビ、當日ハ風位北方ニシテ降灰アリシハ午前十時ヨリ十一時ノ間ナリ、降灰ハ極メテ細微ニシテ灰白色ヲ呈シ(肥料過燐酸ニ髣髴タリ)、和田村ニテハ指頭ニテ形狀ヲ畫シ得ル位ニ積レリ。十一日以降ハ降灰ナシ(東筑摩郡役所)

午前九時頃ヨリ降灰ヲ始ム、安曇村内島、島谷及大野川方面ニ於テ八日前モ降灰アリタリ(南安曇郡役所)

(3) 明治四十年十二月二十三日

奈川村入山、角ヶ平部落ニ於テ午後三時頃噴烟ヲ認ム、翌朝ニ至リ山野ノ積雪ハ一帶ニ黑色トナリタルヲ見タリ、(西筑摩郡役所)

(4) 明治四十一年三月八日

午後ニ至リ風勢強ク時々吹雪ヲ起シ、夜ニ入り風勢ハ衰退セシモ大雪ハ依然トシテ下降セリ、午後六時觀測ノ際積雪ヲ檢セルニ三分程灰ヲ雪上ニ堆積シテ淡キ赫色ヲ呈セリ降灰ハ蓋シ午後二時乃至六時ノ間ニ始マリシナルベシ、吉城郡舟津町地方ニテハ當日午後三時頃ヨリ降灰アリ一分程積レリ(高山測候所)

(5) 明治四十一年七月二十八日

時々降灰アリ

(6) 明治四十二年一月二十日

北安曇郡七貴村、陸郷村方面ニ降灰アリ（二十一日ニハ南安曇郡柏谷町ニテ降灰アリ）

午後二時ヨリ十一時迄南安曇郡東穂高村ニ降灰アリ

夜 高井郡山ノ内及夜間瀬村ニ降灰アリ

夜十二時頃ヨリ上高井郡西南部綿内保科、井上ノ諸村及ビ須坂町ニモ降灰ス

午後八時ヨリ翌二十一日午前ニ亘リ東筑摩郡坂北村字仁熊地方ニ降灰ス

午後七時非常ノ鳴動ヲ發シ北麓吉城郡上室村大字中尾ニテハ釣ランプ著ルシク振動ス平湯ヨリ西北へ一里半ヲ隔ツル同村大字田頃家ニモ鳴響聞ユ、翌朝ニ至リ噴烟平日ニ倍ス（吉城郡役所平湯觀測所）

(7) 明治四十二年三月十三日

南安曇郡ニテハ雪上ニ少許ノ降灰アリ、當夜地震ノ如ク戸障子ヲ動搖セシメタリ、前年秋ニ比スレバ少量ナリトス（松本測候所）

夜十一時ヨリ（松本ニテ）激シキ響アリシ後地震噴火諏訪地方マデ灰ヲ降ラス」地震ノ爲メ時計止ル」夜上諏訪岡谷附近ニ灰降ル

(8) 明治四十二年三月二十三日

本郡西穂高村ノ北部及ビ有明北穂村ニ於テハ午後一時三十分ヨリ約二十分間降灰アリ、而シテ初メ常念嶽一帯ノ邊ヨリ中腹ヲ過ギ西穂高村ノ頂上ニ出デ忽チ滿天ニ漲リ一部ハ降下シ、一部ハ南風ニ吹キ送ラレタリ、降灰ノ盛ナリシ頃ハ暗黒トナリ室内ニ吹キ入り、殊ニ有明地方ノ如キハ約十分間ハ物ヲ辨ズルコト能ハズ點火スルモノサヘアリタリト云フ、有明村ニテハ灰ノ積ルコト約一分ニ及ビタリ（南安曇郡役所）

午後一時三十五分白砂降下シテ地ニ積ル約五分間ハ室内暗黒トナリ燈火ヲ點ズルニ非ザレバ、人ノ顔ヲ見分ケ難キ程ナリキ、灰雲ハ南ヨリ北ニ向ツテ進行セリ（東筑摩郡坂北村役場）
午後二時二十五分ヨリ同五時十分迄降灰アリ少シク屋上ニ積ル、風向ハ南ナリキ、（南小谷村役場）

南安曇郡豊科村以北ハ甚シク降灰アリシ模様ナリ（松本測候所）

午後一時ヨリ南安曇郡穂高村、有明村、豊科村、北安曇郡池田村及ビ東筑摩郡麻績村、更科郡稻荷山町ノ各部、長野市ニ大降灰アリ」就中池田村穂高村附近ハ甚シク二寸餘積ル、北安曇郡松川、常盤ノ二村、高瀬川ノ南岸有明村須阪、池田、中野、大町、豊科ニモ降灰アリ、（當時南乃至南西ノ風）（以上新聞記事）

(9) 明治四十二年三月二十九日

午前七時ヨリ豊科附近ヨリ東筑摩郡東川手村一帯ニ少量ノ降灰アリ

(10) 明治四十二年四月十六日

正午ヨリ午後一時迄少許ノ降灰アリ(東筑摩郡朝日村役場)
午前十一時頃少量ノ降灰アリ燒岳方面ヨリ鳴動ヲ聞ク、安曇村字島々ニテハ十分間降灰アリ、同村字大野川ニテハ鳴動ヲ聞キタリ(梓分署)

(11) 明治四十二年五月七日頃

蝶ヶ岳方面ニ降灰アリ

(12) 明治四十二年五月十三日

午後十二時頃約一時間降灰アリ、午後十一時頃三回ノ鳴動ヲ聞ク、翌朝ニ至リ吉城郡上室村、田頃家附近ハ一分餘ノ降灰アリ、同所ヨリ九里西方ニ當ル神川村神原附近ハ樹葉ニ斑點ト粘液様ノモノ固着シ、船津附近モ點々降灰シタルヲ見ル(船津警察署)

(13) 明治四十二年五月十五日

午後九時ヨリ大鳴動アリ、同十時ヨリ十一時迄デ大町地方ヘ降灰ス

(14) 明治四十二年五月二十八日

朝噴火シ、南北安曇郡長野市ヘ降灰ス

午前六時ヨリ降灰シ、同六時半頃迄繼續シ、樹木及ビ地面ハ白色ニナレリ(北安曇郡陸郷村役場)

(15) 明治四十二年六月一日

午後六時十四分ヨリ約十五分大ニ鳴動セリ當日ハ晴天無風ナリキ

(16) 明治四十三年十一月十一日

午前五時鳴動、噴火、松本方面ヘ降灰ス

(17) 明治四十三年十一月二十九日、三十日

二十九日午後十時頃噴火少量ノ降灰アリ三十日午前六時頃俄然黒赤色ノ噴烟南東ニ吹キ流ル、梓川一時濁水トナル

午後二時頃迄モ降灰アリタリ(安曇村役場)

三十日午前六時十分鳴動ト共ニ噴烟シ黒烟天ニ漲ル、折柄西風ト共ニ右黒烟ハ信濃方面ヘ吹キ流サレ爲メニ當地ハ被害ナシ、鳴動時間三分ニ及ブ(吉城郡平湯觀測所)

三十日午前二時頃大鳴動大噴火、同七時頃南安一帯ノ山野ニ降灰ス、稻荷山町ニハ午前八時降灰アリ

各地ノ降灰左ノ如シ

諏訪郡川岸村 二十九日午後八時頃迄晴天其レヨリ曇天トナリ飛雪ト思ヒシニ朝降灰アリ、約二厘積ル、鳴動ナ

シ

同 湖南村 微量ノ降灰アリ、鳴動ナシ

同 金澤村 三十日午前六時前ニ極微量ノ灰白色ノ降灰

アリ鳴動ナシ

同 豊田村 朝微量ノ白灰色ノ降灰アリ、鳴動ナシ

同 上諏訪町 僅少ノ降灰アリ、鳴動ナシ

同 平野村 二十九日午後十一時頃ヨリ翌朝午前三時頃

迄約五厘ノ降灰アリ

同 長地村 三十日ニ地面一帯ニ大霜ノ如キ降灰アリ

同 湊村 二十九日夜降灰アリ地面白色トナル

上伊那郡伊那富村 三十日(二十九日?)午後九時頃ヨリ同

十一時迄ノ間ニ降灰アリ淡鼠色ニシテ霜ノ如クニ地面ニ

積レリ鳴動ナシ

同 中箕輪村 二十九日午後八、九時頃ヨリ曇天トナリ

翌朝少量ノ降灰ヲ認ム

同 川島村 三十日大噴火ノ際ハ白色ノ降灰アリ、地面

ハ結霜セルガ如クナリキ

(尙ホ此ノ外ニ幾多ノ小噴烟ハアリシナラント想像セラル)

左表ニ前十六回ノ燒岳噴火(第十五回ハ鳴動ノミナリシヲ以

テ除ク)ノ時日ト同時期間ニ於ケル淺間山噴火ノ時日トヲ對

照シテ示ス、表中(*)印ヲ附セルハ強キ噴火ナリ。特ニ大ナル
モノニハ(**)印ヲ附シタリ。

燒岳噴火表 (淺間山ノ噴火ト比較ス)

戊	(10) 同 四月十六日午前十一時	(7) 同 三月十三日午後十一時	丁	(6)* 四十二年一月廿日午後七時	丙	(5) 同 七月二十八日(時々)	乙	(4) 四十一年三月八日午後二時頃	甲	(1) 四十年十二月八日午後二時頃	燒岳噴火ノ時日(明治)	淺間山ノ噴火及ビ顯著ナル鳴動ノ時日(明治)
	(9) 同 三月二十九日午前七時	(8)** 同 三月二十三日午後一時		(3)* 四十二年一月廿九日午後五時		(2) 同 八月十八日午後八時		(3) 同 十二月十一日午前八時頃		(2) 同 十二月廿三日午後三時		
	(5) 同 四月二日午前七時		(4) 同 二月二日午後二時乃至三時									

庚	己	(14)(13)(12)(11)
(16)(15) 同 四十二年五月七日頃 同 五月十三日午後十一時頃 同 五月十五日午後九時頃 同 五月二十八日午前六時		
(15) 同 十二月二日午後八時廿分 (此ノ後淺間山ノ爆 發ハ頻繁トナル)	(14)(13)(12)(11)(10) 同 五月二日午前九時 同 七月四日午前十時五十分 同 十月廿一日午後三時半 四十二年五月三十一日午後十一時二十五分 同 七月六日 同 八月廿一日午後六時 同 十二月七日午後七時四十分 同 十二月七日午後七時四十分 (四十二年一月廿二日午後三時頃ニ淺間山下ニ強震アリ) 同 五月二日午前九時 同 七月四日午前十時五十分 同 十月廿一日午後三時半 四十二年五月三十一日午後十一時二十五分 同 七月六日 同 八月廿一日午後六時 同 十二月七日午後七時四十分 同 十二月七日午後七時四十分 (四十二年一月廿二日午後三時頃ニ淺間山下ニ強震アリ)	

上表ニ依リテ燒岳及ビ淺間山ノ噴火時期ヲ比較セン爲メニ、表中ノ燒岳噴火十六回及ビ淺間山噴火十五回ヲ通ジテ便宜ニ甲、乙、丙、丁、戊、己、庚ノ七組ニ區別スベシ兩火山破裂

ノ時期ニ關シ最モ顯著ナル事實ハ左ノ二ヶ條ナリトス
 〔一〕燒岳ト淺間山ノ一方ガ連續活動スル時期ニハ他方ハ靜謐ナルコト
 (戊)時期即チ明年四十二年三月十三日ヨリ五月二十八日迄ノ間ニ於テハ燒岳ノ活動甚ダ盛ニシテ八回ノ噴火アリ、就中三月二十三日ノ噴火最モ大ナリシガ、淺間山ハ極メテ靜穩ニシテ漸ク四月二日ニ一回ノ小噴出アリタルノミナリキ
 〔二〕之ニ反シテ次ノ(己)時期即チ四十二年五月三十一日ヨリ十一月七日迄ノ間ニハ淺間山ノ活動盛ニシテ九回ノ噴火アリ、就中五月三十一日ノ破裂ハ近年ニ於ケル淺間山ノ最強ノ變動ナリシガ燒岳ハ此ノ期間ニ一回モ破裂セルコト無カリキ、而シテ(庚)時期即チ四十二年十一月十一日以後モ(戊)時期ト同様ノ傾向ヲ示シ、先ヅ燒岳ノ噴火二回アリシモ十二月二日後ハ連續シテ淺間山ガ破裂セルコト最モ頻繁ナリキ。
 〔二〕燒岳ト淺間山ノ顯著ナル噴火ガ相接シテ發スルコト
 燒岳ハ強キ噴火ヲナシ、其レヨリ僅カニ九日ヲ經テ淺間山モ強キ噴火ヲナセリ
 燒岳ハ四十二年五月二十八日以後殆ド一年六ヶ月間噴火セザリシニ(庚)四十二年十一月十一日ニ及ビテ噴火シ同二十九日ニハ強キ破裂アリシガ、其レヨリ僅ニ三日

ヲ經テ十二月二日ニハ淺間山ノ強キ噴火アリタリ。

要スルニ大體ニ於テハ燒岳ト淺間山トノ活動時期ハ相交互スルモノト思ハル、而シテ又一方ニ兩火山ノ強キ噴出ガ引キ續キテ起ルノ事實ハ燒岳噴火ガ寧ロ淺間山ノ噴火ヲ誘出スルガ如キ觀アリ、例之バ四十二年五月二十八日ニ(戊)期最終ノ燒岳噴火アリテ三日後ニ淺間山ノ噴火トナリ、若クハ燒岳ガ久シク靜穩ナリシ、後ニ噴火スレバ、次ギテ數日後ニハ淺間山モ亦噴火セルコト(丁)、(庚)兩時期ニ於ケルガ如キハ偶然ノ出來事ナリトハ考ヘラレズ、兩火山相互ノ關係ヨリ生ズル結果ナルベシ。

降灰及ビ鳴響區域、燒岳ノ噴火ニ伴ヘル降灰及ビ鳴響ヲ聞ケル區域ハ次表ニ示スガ如シ

燒岳ノ噴火ニ伴ヘル降灰及ビ鳴響

號番	年月日	降灰セル地方 (燒岳ヨリノ方向及ビ距離)	鳴響ヲ聞ケル地方
1	四〇年一月八日	西へ三五「キロメートル」飛驒國船津及ビ高山迄	
2	同 同 一	東々南へ三〇「キロメートル」	
3	同 同 二	南(?)へ二〇「キロメートル」(?)	
4	四一、三、八(1) 二同シ		
6	四二、一、二〇	東北へ八〇「キロメートル」須阪附近	西々北へ約三里ヲ距テハ強キ鳴動ヲ聞キ家屋動搖セリ

7	四二、三、二三	東々南へ五五「キロメートル」上諏訪附近迄	
8	同 同 二三	北東へ八〇「キロメートル」燒岳ヨリ約二六「キロメートル」ノ距離ニアル穂高村(南安曇郡)池田村(北安曇郡)ニテハ二寸餘ノ降灰アリ	
9	同 同 二九	東々北へ三五「キロメートル」東筑摩郡東川手村迄	
10	同 同 四一六	東々南へ一五「キロメートル」東筑摩郡朝日村迄	
11	同 同 五、七	東北ノ方、蝶ヶ岳迄	
12	同 同 一、二三	西々北へ三五「キロメートル」飛驒國船津迄	
13	同 同 一五	東北へ三三「キロメートル」大町迄	
14	同 同 二八	東北へ三〇「キロメートル」北安曇郡陸郷村(長野附近ニテモ少シク降灰アリ)	
16	四三、一、一一	東方へ三〇「キロメートル」松本方面へ	
17	同 同 二九	東々南へ六〇「キロメートル」諏訪湖ノ東南ニ達ス	飛驒國平湯迄

前表ニ依ルニ、灰ノ降下セル方向ハ左ノ如シ

燒岳ヨリ東方へ…… 一回

- 東々北方へ…… 一回
- 東方へ…… 一回
- 東々南方へ…… 四回
- 西方へ…… 三回

即チ十四回ノ噴火中ニテ三回ハ西方へ降灰セルモ十一回ハ東北乃至東々南ノ方向へ降灰シ、且ツ五十五乃至八十「キロメートル」ナル比較的遠距離ニ迄達セルハ東北ノ方向ト東々南

ノ方向ナリキ。

燒岳噴火ノ音響波ガ北東方向ニ最モ著ルシク傳播セルハ信濃國南安曇郡東部ノ臺地ヨリ善光寺ノ平地ニ連續シテ非常ニ高キ山脈ガ其ノ間ヲ遮斷スルコト無キガ爲ニシテ、又々音響波ガ東々南ノ方向ヘ比較的遠ク延長セルハ東筑摩郡中央部ノ低地ヨリ諏訪湖ノ盆地ニ接スルガ爲ナルベキカ、但シ飛驒國船津及ビ高山ハ殆ド燒岳ヲ尖頭トシテ各々西々北及ビ西方ニ走ル溪谷ニアリテ約三十五「キロメートル」ヲ距ツルニ過ギザルニ同地方ニ降灰セルハ僅ニ三回ノ噴火ノミニシテ、他ノ十一回噴火ノ場合ニハ悉ク信州方面ニ降灰シタルノ事實ニ徴スルニ上層風ハ主トシテ西風ナルベシト思ハル(淺間山噴火報告ヲ參照スベシ)。

前記ノ十四回ノ噴火ヲ月別ニスレハ左ノ如シ

十一月	十二月	十一月	十二月
一回	一回	一回	一回
一月	一月	一月	一月
一回	一回	一回	一回
二月	二月	二月	二月
一回	一回	一回	一回
三月	三月	三月	三月
一回	一回	一回	一回
四月	四月	四月	四月
一回	一回	一回	一回
五月	五月	五月	五月
一回	一回	一回	一回

即チ此等ノ噴火ハ悉ク十二月乃至五月ニアリテ六月乃至十月ニ發シタルモノハ一回モ無カリキ。